

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

| | | |
|---------|-------------|------|
| 団 体 名 | NPO法人ひだ文化村 | |
| 施 設 名 | 飛騨市文化交流センター | |
| 助成対象活動名 | 普及啓発事業 | |
| 内定額(総額) | 1,299 | (千円) |
| 公 演 事 業 | | (千円) |
| 人材養成事業 | | (千円) |
| 普及啓発事業 | 1,299 | (千円) |

(2) 平成30年度実施事業一覧

| 【普及啓発事業】 | | | | | |
|----------------|---------------------------|------------------------|---------------------------|----------|-------|
| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 2018年ランチ・ディナー タイムコンサート | 2018年4/1～ 2019年3/31 | 出演：プロオーケストラ奏者4名 | 目標値 | 450 |
| | | 飛騨市内福祉・ 支援学校他 | | 実績値 | 689 |
| 2 | 飛騨市文化村サマーフェ スティバル2018 | 2018年8月 | 飛騨市内伝統芸能団体他 | 目標値 | 2,000 |
| | | 飛騨市文化村 | | 実績値 | 2,600 |
| 3 | 音楽活動学生支援事業 | 2018年7月31日～ 8月16日 | 富山県立富山南高校 名古屋音楽大学打楽課生徒 | 目標値 | 200 |
| | | 飛騨市文化交流センター | | 実績値 | 257 |
| 4 | スピリットガーデン合唱 アウトリーチ事業 | 2018年10月16日～ 10月19日 | 東京混声合唱団 | 目標値 | 400 |
| | | 飛騨市内小学校 | | 実績値 | 1,127 |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| 平成30年度の目標値、実績値 | | | | 目標値 | 3,050 |
| | | | | 実績値 | 4,673 |

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

飛騨市文化交流センターが設置されている飛騨市という地域は少子高齢化が進んでおり、飛騨市の人口の38%以上が高齢者という超高齢化社会であります。超高齢化社会である飛騨市の問題点として、伝統芸能の継承者不足、地域コミュニティの希薄化、地域の衰退化などが問題点として掲げられており、飛騨市文化交流センターは文化活動を通して、地域住民に生きがいと心豊かな潤いを与え、またあわせて地域に賑わいと活気を創出し、社会教育振興を推進していく拠点として、活動をしていかなければなりません。そういった地域特性を踏まえ、私たちは地域子どもたちや地域住民の方への文化の提供、飛騨市に受け継がれてきた伝統芸能の継承、文化振興の発展、地域の活性化を行うため今回の事業を計画いたしました。今回の事業では全ての方に平等に文化が提供されるべきであると考え、自ら文化を楽しみに来られない方へ向けた出張コンサートなどを実施した他、飛騨市は僻地に集落があり、その集落で生活されている方などにも主要部の方達と同じようにプロの指導や文化を届ける必要があると考え、各教育機関・介護施設などへこちらから訪問し、プロの指導や訪問演奏会などを実施致しました。今回の事業では飛騨市内の小学校6校への訪問、飛騨市内の特別支援学校への訪問、飛騨市内特別養護老人ホームへの訪問などを実施しました。当初の計画では、日程調整が困難になるとの予想されましたが、早期より打ち合わせを重ねた結果、事業を円滑に遂行する事ができました。その他にもこちらから訪問するだけでなく、地域住民が集まる場所を創出し、多くの住民が集まる場所で伝統芸能の披露を行う事で、地域の活性化・伝統芸能の普及を目的とした事業も実施しました。地域の伝統芸能団体との出演交渉では、地域の伝統行事等の日程を考慮しなければならず、出演団体の選定や日程調整が難航しましたが、計画通り進める事ができました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

今回の事業では地域の学生・地域の住民へのアウトリーチを行いました。学生へのアウトリーチでは、地域の小学校へ直接訪問し、一流の音楽に触れる機会を創出したり、飛騨市内各施設への出張コンサートを行い、コンサートに来られない方々への文化の提供を行う活動を実施いたしました。訪問した小学校の中には市内中心部より車で1時間かかる集落にある学校もあり、中心部にある小学校の学生と比べ、文化に触れられる機会が少なくなりがちになるなど、地域格差が浮き彫りになっていました。また、身体的理由などによりコンサートへ行きたくても行けない方々のためにも、飛騨市内全ての方へ平等に文化に触れられる機会を創出しなければならないと考え、今年度は飛騨市内すべての小学校へのアウトリーチ活動、市内施設4か所への無料出張コンサートを行う事となりました。伝統芸能の継承では、効率よく伝統芸能の周知を市民へ行うため、人が多く集まる場所を創出し、人口の約10%以上の人を集めることを目標に今回の事業を実施いたしました。

これらの活動により、2018年度に続き2019年度飛騨市小中学校音楽会への参加決定や、飛騨市民病院での出張コンサートでは、「今後も継続して出張コンサートを行っていただけるようであれば、病院にある楽器の整備をしたい」と申し出ていただけるなど、今後の活動に理解をいただき、さらには協力していただける体制を築くことができました。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

今回の事業では、すべての人に平等に文化を提供する、飛騨市に伝わる伝統芸能を次世代に継承するため多くの方に伝統芸能を披露するということを課題に目標設定を行いました。

2018年ランチ・ディナータイムコンサートでは以下のように目標を設定いたしました。

・年6回のコンサート 各42.5名 合計255名

年6回のコンサートでは、過去に行ったランチタイムコンサートの入場者数を参考に決定いたしました。2017年度に6回開催したランチタイムコンサートでは、合計231名の集客があり、2018年度は昨年度の約10%増を目標値とし目標値合計255名といたしました。結果、今年度は合計136名の集客となり、コンサートでの来客数の目標は大きく下回る結果となった。いくつかの要因があり、年6回開催予定としていたコンサートが年4回となったことが要因と考えられる。7月に予定していたコンサートが災害級の大雨により、次回へ延期になり開催できなかった事、日程調整の関係で計4回しか開催できなかったことが要因と考えられる。

・年6回のアウトリーチ事業各施設の入居者を対象に30～35名ずつ 合計195名

年6回のアウトリーチ事業では年間の訪問施設をある程度設定し、そこから飛騨市内の特別養護施設や特別支援学校の入居者・生徒数から、訪問演奏会の入場者数を決定しました。今回の結果として、参加者数が合計553名と大きく目標を上回る結果となった。年6回企画していたコンサートが年4回しか開催できなかったが、予想を大きく上回る数の方に出張コンサートを聴きに来てくださった事、第44回飛騨吉城高校吹奏楽部定期演奏会へのゲスト出演、指導などを行った結果、予想を大きく上回る人数の方に参加していただくことができました。

以上の要因により、合計では450名の参加目標に対し、689人の方に事業に参加していただくことができました。

飛騨市文化村サマーフェスティバル2018では、来場者数2,000人の目標を設定いたしました。これは、平成30年度の飛騨市の人口約24,000人をもとに、実際に活動できる方が約20,000人いると考え、目標値をその1割、2000人といたしました。

当日は多くの方に伝統芸能を広めるべく、まず子供の集客に力を入れました。敷地内を走るミニSLの乗車会を企画したり、子ども向けのヒーローショーを行うなど、子どもが来なくなるイベントを数多く開催いたしました。伝統芸能を披露するタイミングも、子供たちの興味があるショーの直前、直後に行うなど、興味のあるものだけを見に来る企画とならないように工夫しました。多くの方が集まる場所を創出したことで、より多くの方に伝統芸能に触れていただきました。そうした活動の結果、目標を上回る合計約2,500名（飛騨市役所調べ）の方に来客していただくことができました。

音楽活動学生支援事業では音楽合宿の参加者・成果発表会の来場者の合計を200名と設定しました。

音楽活動学生支援事業は音楽活動を行う学生への支援の他、飛騨市内の学生へ指導を同時に行う事で、プロより近い存在である高校生・大学生たちの活動を体験していただき、より身近に感じていただくことが目的でもありました。事業を進めるにあたり、まず全国の音楽学校へ営業を行いました。その結果、富山南高校吹奏楽部・名古屋音楽大学音楽学部打楽コースの学生の音楽合宿を誘致することができました。多くの学生に来ていただくため、成果発表会・インリーチ指導を行う事を条件に、一部費用を負担することで、多くの学生に参加していただくことができました。

富山南高校の合宿では、古川中学校吹奏楽部・吉城高校吹奏楽部の生徒たちが富山南高校吹奏楽部との練習交流会を行い、富山南高校・吉城高校・古川中学校の吹奏楽部の生徒・教員合計87名での交流会を行った。また、その後の合宿成果発表会では103名の方に成果発表会を聞いていただきました。

名古屋音楽大学音楽学部打楽コースの音楽合宿では、11名の生徒たちに音楽合宿を実施していただき、古川中学校打楽器パートの生徒4名に音楽指導を行いました。その後の成果発表会では、52名のお客様に来館していただくことができました。2回の音楽合宿により合計257名の方に今回の事業に参加していただき、目標の200名を上回る人数の方に参加していただくことができました。

スピリットガーデン合唱アウトリーチ事業では、市内の小学生を対象に400名を目標にアウトリーチ活動を行いました。

東京より東京混声合唱団を招待し、各学校へ直接訪問することで、すべての児童が指導を受けられるよう活動を行いました。そのほかにも、市民の皆様も自由に入場できる飛騨市小中学校音楽会へのゲスト出演を行う事で、広く市民の皆様にも東京混声合唱団の歌声を届けることができました。古川小学校の児童が学年全体でアウトリーチに参加していただくなど、目標を大きく上回る1127人の方に参加していただきました。

今回のすべての事業を通して、3050名の参加目標でしたが、合計4617名の方に事業に参加していただくことができ、予想を大きく上回る方々に今回の事業に参加していただきました。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

今回の事業では、当初の計画通りおおむね進める事ができました、しかし活動を行った中で、見つかった課題点も多くあり、今後の予算計画や事業進行の日程づくりに活かしていかなければならない点があつていました。

今回の活動の一つである「音楽活動学生支援事業」では、大学・高校と2校の学校に、飛騨市文化交流センターへ合宿に来ていただきました。事業の期間や予算に関しては、事前より各学校と打ち合わせを重ねほぼ予定通りに進んでいましたが、アウトリーチ活動の日程調整がうまくいきませんでした。これは、アウトリーチ対象の飛騨市内の中学生の予定を考慮しないまま、先に合宿時期を決定してしまったことが原因と考えられます。今回、名古屋音楽大学が飛騨市文化交流センターへ音楽合宿に来ていただきましたが、その時期が8月14日～8月16日という期間でした。これは、地元中学生の部活動の大会が終了し部活動を行わない時期ということで、先生方の理解を得ることが難しい時期となってしまいました。昨今の時代背景として、部活動の時間短縮や先生方の負担軽減などが問題となっている中、当館の事業がそういった事情を考慮できず、事業日程を決定してしまったことは次回以降の反省としなければならぬとともに、地元教育機関の方々と計画の段階よりコンタクトを図り、日程を決定しなければならぬと感じました。

そのほかにも、事業全体を通して感じたことが、アウト・インリーチ活動が広範囲になっていると感じました。事業が広範囲にわたることで、1か所に対する事業の内容も単発的になるほか、指導内容の定着が難しいといった問題点もありました。全体的に広く活動を行う事ができたのは良かった点ではありますが、もう少し範囲を狭め、広く浅くの活動から狭く深く活動を行う事が必要になっているのではないかと感じました。また、広く浅く活動を行う事で、活動範囲が広くなり移動に時間を取られるといった問題も見受けられました。移動に時間を取られ、肝心のアウト・インリーチ活動に時間を使えないといったこととなり、限られた指導者の拘束時間を有効に使えなかったようにも感じました。今後これらの事業計画を立てる上で、もっと長期的に1つの事業を計画し、複数年にわたり計画を進行していく必要があるのではないかと思います。

一度に多くの機関にアウト・インリーチを行うのではなく、一度に一つの機関にアウト・インリーチを徹底して行い、それを複数年に続けて行う事で指導の内容の定着、そして指導期間の有効活用ができると考えております。

事業費用としては、おおよそ計画通りに進める事ができましたが、見直す点は多々あったかと感じます。飛騨地域という特性上、どうしても交通費に予算がかかってしまうという問題点も多くあり、事前の打ち合わせなどに予算がかかってしまったように感じました。

打ち合わせの段階より、いろんな通信手段を利用し、効率的かつ予算のかからない方法を検討していく必要があると感じました。限られた予算を交通費に利用するのではなく、指導者・演者の方の招致に利用することで、より内容の濃い指導や公演が行える結果となるので、今後の改善点として、地域特性を考えた打ち合わせ、事業進展の方法を計画していく必要があると感じました。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

今回の事業では、地域の方々と様々な形で文化的な交流を図る取り組みを行ってまいりました。ランチ・ディナータイムコンサート2018では、地域のコンサートに来ることができない方々へ対して平等に文化を届けるための活動として飛騨市内各地の施設への訪問コンサートや、飛騨地域の学生の方へ対しての指導など、飛騨市文化交流センターより飛騨市内の各地へ文化を届ける活動の展開。サマーフェスティバル2018では夏祭りイベントを企画し地域交流の場、そして地域コミュニティの創出を行い、地域の方々が飛騨市文化交流センターへ集まり文化に触れる活動の展開。音楽活動学生支援事業では飛騨市に音楽合宿を誘致し、音楽活動を行う学生へ対して合宿活動場所・成果発表の場の提供を行うなど、未来ある若者への音楽活動の活動支援の展開。スピリットガーデン合唱アウトリーチ事業では、飛騨市文化交流センターに縁のある武満徹をモチーフとし、飛騨市内の学生に対する合唱指導活動などの展開など、多角的に事業を展開しました。飛騨市文化交流センターは武満徹氏との関係が非常に強く、旧古川町時代に古川町から武満徹氏へ作曲委嘱したことから、飛騨市と武満徹氏との関係が始まりました。武満徹氏は、飛騨市に足しげく通われ、飛騨市のために「スピリットガーデン（精霊の庭）」を作曲されました。飛騨市は過去より、学校の体育館をコンサートホールとして反響版を設置して、東京フィルハーモニー交響楽団などの楽団を招致してコンサートを行うなど、クラシックや音楽文化などが地域の方々の身近に存在してきました。そんな中、飛騨市文化交流センターが立ち上がることとなり、ホールの名前を決める際、武満徹氏と古川町との関係、そしてクラシックが身近にある環境などから、旧古川町に作曲委嘱された「スピリットガーデン（精霊の庭）」より名前をいただき、飛騨市文化交流センターの大ホールは「スピリットガーデンホール」と名付けられました。そういった背景より、飛騨市文化交流センターでは武満徹氏へスポットを当て、飛騨市文化交流センターとしての文化活動を行う事を事業の一つの柱として活動を行ってまいりました。スピリットガーデン合唱アウトリーチ事業では、武満徹氏の歌を歌える唯一のプロ合唱団といっても過言ではない、「東京混声合唱団」の皆様を招待し、飛騨地域の学生たちへ、過去より続く飛騨市と武満徹氏の間をつないでいくための活動を毎年行っております。そういった背景をもとに、ただ公演やコンサートを行う施設として設置されているだけでなく、地域の音楽文化や伝統芸能の振興を図るための施設として、ただイベントを行い構えているだけの施設ではなく、自主的に文化を広め届ける活動を行うほか、飛騨市の文化の象徴である武満徹氏との関係を未来に伝える活動を行ってまいりました。飛騨地域の特性上、高齢者の方々が多くまた公共交通機関が乏しく、なかなか飛騨市文化交流センターまで来られない方々へ文化を届ける活動、そして飛騨地域の地域特色を活かしたアウト・インリーチ活動は、人口密集地とは違った飛騨地域ならではの活動であったと考えており、今回の事業は飛騨地域における文化拠点として最大限機能を発揮することができた事業だと考えております。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

今回の事業では飛騨地域の方々に文化活動を通して何が市民に提供することができるのかを検討いたしました。飛騨地域の抱えている問題として、人口の減少による経済活動の低下・地域コミュニティの希薄化、少子高齢化など様々な問題点が浮かび上がり、その中で文化拠点として何ができるかを考えました。その結果、飛騨地域には、音楽文化を学ぶ環境が乏しく、一流の音楽や文化に触れる機会が都会と比べ圧倒的に少ないということから、飛騨市民特に学生や音楽文化に触れたくても、事情があり触れることができない方へ、音楽文化を提供するということから活動をスタートさせることとなりました。そのためには、多くの関係機関への協力が不可欠であり、アウトリーチ活動の内容はもとより、各機関への日程調整から始めることといたしました。

ですので、まず飛騨地域の各機関への日程を確保してから、指導者・演者の決定を行う事で、確実に予定を遂行できるよう企画を始めました。日程が決まったところで日程が合う方を選出し、予定を決定してまいりました。

日程と演者が決まったところで各活動の内容を、アウトリーチ先・演者の方双方の意見を参考にしながら、組み立ててまいりました。

活動の一つである「スピリットガーデン合唱 アウトリーチ事業」の活動では、小学生の皆さんが、現在授業や卒業式などに向けて練習している曲目をアウトリーチを実施する3か月以上前より、各教育機関より吸い上げ、指導者へ前もって伝えることで、事前に指導内容を決めることができました。事前に指導内容を決めることができると、指導をより深く・正確にすることができるほか、当日効率よく指導を行う事ができました。

ランチ・ディナータイムコンサートでは、自然災害でインリーチ活動・コンサートが順延となってしまいました。事前より、打ち合わせを行い、交通機関・ホテル等も確保して万全の態勢で臨んでおりましたが、線路が雨で流される・交通機関の停止・学生の外出禁止など、多くの緊急事態が発生いたしました。今回の事例では、当初の予定はすべて中止になり、日程を改めて同じ内容を行う事ができましたが、不測の事態に対応する内容を事前に決めておく必要があると感じました。

全ての事業を通し、おおむね計画通りに進める事ができ、事業の進め方に対しては反省点は少ないように感じましたが、事業の内容としていくつか感じた点が以下のようにありました。

・事業の持続性

今回のランチ・ディナータイムコンサートでは各施設へ出張演奏を行いました。しかし、今回の演奏会だけでは単発の企画となっており、訪問する施設がなくなり次第終了となってしまう企画となっている。そこで、今後の活動を継続して行うため、各施設への定期的な演奏会の開催を企画することが重要になってまいります。今回の活動を通じて、飛騨市内にある病院では「定期的に出張演奏を開催していただければ」との申し出もあり、今後も各施設と調整を取りながら定期的なイベントとなるよう、企画を進めていかなければならないと感じました。

・指導後の発表の場を創出する事。

今回のアウト・インリーチ活動では、指導を行いそれを発表する場がないように感じました。練習成果の発表の場を設け、地域の子供たちの成長や成果を地域で共有することで、地域の音楽文化の発展はもちろんのこと、地域の方々のコミュニティなどをはぐくむ場として飛騨市文化交流センターを最大限活用していく必要があると感じました。

以上の反省点、課題を検討したうえで来年度より、以下のような活動を検討していきたいと考えます。

・アウトリーチ後の活動

今回の活動では、アウトリーチ活動を行う事はできたものの、その後の成果がどのように生かされ、どのように地域に貢献できたのかがしっかりと検証、実践できていなかった。来年度以降アウトリーチを実施後、成果を発表できる場を創出すること、またそれに伴い地域の方々が交流できる環境を、成果発表を通じて作っていく活動を行っていきたいと思っております。そのほかにも、今後の活動につながるコネクションや実施環境を知ることができました。来年度以降、今年度活動した経験や、コネクションをもとに、アウトリーチ活動が単発で終了されるのではなく、継続して来年度以降も行う環境を整備していきたいと考えております。そういった環境を整備することで、活動内容が一過性のものでなく、地域の音楽文化全体の向上の底上げになっていくと考えます。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

今回の事業を通して、多くの地域住民の方々にNPO法人ひだ文化村の活動を見ていただき、飛騨市内の多くの市民、法人の方々に協力をいただきました。

アウトリーチ事業では、飛騨市内の多くの特別養護老人ホームや、特別支援学校などに訪問いたしました。多くの活動ができた反面、やはり飛騨市内だけの活動では限界があり、高山市や下呂市などといった周辺の地域との関係性を構築していく必要があると考えました。

その結果、2018年度には新たに飛騨市にある飛騨市文化交流センター、高山市にある高山市民化会館・飛騨世界生活文化センター、下呂市にある下呂交流会館アクティブの4館で連絡協議会を立ち上げました。これは、飛騨地域としてこれからの文化活動を協力的に、そして強固な関係性を築くほか、各事業にて協力体制を行うため立ち上がった団体です。

2018年度に新たに立ち上がった団体ですのでまだ方針は決まっておりませんが、これからより綿密に連絡を取り合い、協力していくことで、飛騨市内の活動だけでなく飛騨地域として、文化活動の盛り上げを図っていく体制を築くことができました。そのほかにも、NPO法人ひだ文化村には、法人賛助会員制度・ガーデンメイト会員制度という制度があり、飛騨地域の企業、個人の方々に会員となっただき、賛助していただくという制度があります。2018年度は、多くの法人賛助会員のほとんどが飛騨市内の企業でしたが、2018年の活動を通して多くの企業にアピールを重ね、飛騨市内にとどまらず、隣の高山市の企業にも新たに2社法人賛助会員として賛同していただくことになりました。これは、2018年の活動を飛騨市内だけのアピールするだけにとどまらず、他の地域の企業にも活動アピールを行った結果、賛助していただける企業の地域を広げることに成功いたしました。

そのほかにも、NPO法人ひだ文化村では市民により近い意見を取り入れるため、正会員制度を取り入れております。今回の事業では、飛騨地域の各施設における職員や関係者の方々に、今後正会員への加入を進めていきたいと考えております。今回の活動で多くの施設の方と一緒に活動することができ、今後のパイプを作ることができました。今後、より深い位置での活動を行うため、今回の事業に関わって活動を行っていただいた方々を正会員とし取り込んでいきたいと考えております。

また、今回の活動の中のコンサートでは、多くのアンケート結果を回収することができました。これらのアンケート結果をもとに、来年度の事業へのフィードアップを図り、より市民の方々のニーズなどにこたえられるよう、事業を作り上げていく必要があると考えております。